



吉祥寺東おもちゃ病院

思い出がつまった壊れたおもちゃを 腕利きのドクターが修理

「吉祥寺東おもちゃ病院」は、約2160名の「おもちゃドクター」を有する全国組織のボランティアグループ「日本おもちゃ病院協会」に属する団体です。

創設当初は、修理の依頼が多いプラレールに特化した「プラレール病院」として「開院」したそうです。病院とはいえ、専用の建物があるわけではなく、子育て支援施設の「0123吉祥寺」や市内のコミュニティセンター、子ども食堂などでおもちゃの預かりや修理を行っています。

現在、吉祥寺東おもちゃ病院のドクターは6名。「病院長」を務める米山三郎さんは、カメラ機器メーカーで設計や開発に携わり、定年退職後おもちゃドクターに。「もともと機械いじりは好きですし、頭の体操にも良いだろうと思って始めました」と語ります。ドクターの1人、渡部^{わたべ}一^{かず}さんは、学校で技術科の教員をしていた経歴の持ち主。依頼のあった子どもから感謝の手紙をもらうこともあり、「とてもうれしいですし、活動の励みになります」とほほ笑みます。6名のドクターにはおのおの得意分野があり、相談しながら修理を進めています。

修理をする上でポイントになるのが、ネジやバネなど、最適な部品があるかどうかです。修理は原則無料ですが、部品を交換する場合は実費をいただくこともあるため、「どこからなるべく多種多様な部品をストックしています。皆さんが捨てようと思っておもちゃでも、中の部品は再利用できるので、ぜひおもちゃ病院に持ち込んでほしいですね」と米山さん。

また、最近では古いおもちゃの修理依頼も増えているそうです。親世代が大切にしていたおもちゃを子世代に受け継ぐことで、親子で思い出を共有しながら、エコやサステナブル（持続可能性）にもつながっているのではないのでしょうか。

このおもちゃ病院の目下の課題は後継者が不足していること。全国組織の協会ではおもちゃドクター養成の研修もあるため、初心者でも大歓迎だそうです。専門的な技術が必要というより「これはどうやって動いているんだろう」という探求心があればドクターの素質あり、とのこと。子どもの人口が増えている武蔵野市では、おもちゃ病院のニーズもさらに高まりそうです。



吉祥寺東おもちゃ病院の詳細はこちら

吉祥寺東おもちゃ病院

壊れたおもちゃを原則無料で修理し返却するボランティア団体として2017年10月発足。日本おもちゃ病院協会の登録病院。おもちゃの出張修理は、0123吉祥寺（不定期）、吉祥寺南町コミセン（毎月第1土曜）、本宿コミセン（奇数月第2金曜）、吉祥寺東コミセン（毎月第2土曜）、テンミリオンハウス月見路（毎月第3土曜）などで開催。おもちゃの預かりは、0123吉祥寺、ぞんみょうじこども食堂（世田谷区）で随時実施。直近の開催日時はホームページで確認を。



おそろいのエプロンがお似合いなおもちゃドクターの皆さん。左から池田さん、米山さん、渡部さん、竹内さん



ドクター6名はおのおの知恵や技術をシェアしながら修理を進めます

出張修理では、その場でおもちゃを直してくれますが、部品がない場合などは「入院」となり、後日返却となります